

第1回 適正配置実施計画検討委員会 要点録

日 時：平成23年7月5日（火）午後3時30分から

場 所：1902会議室

出席者：阿形学校教育部長、古橋学務課長、関北大泉幼稚園長、齋藤光が丘あかね幼稚園長、宮崎光が丘むらさき幼稚園長、石橋光が丘わかば幼稚園長、瀬田光が丘さくら幼稚園長、吉村教育指導課長、小暮新しい学校づくり担当課長、齊藤職員係次席（庶務課長代理）、

事務局：学務課学事係、新しい学校づくり担当課新しい学校づくり担当係

検討会次第

- 1 学校教育部長あいさつ
- 2 委員長・副委員長の選任
- 3 区立幼稚園の適正配置の位置づけ
- 4 適正配置対象園について
- 5 今後のスケジュール

検討事項および意見

1. 区立幼稚園の適正配置の位置づけ
 - ・「区立学校適正配置第二次実施計画」とするか「区立幼稚園適正配置実施計画」とするか、現時点で決める必要があるのか。
 - ・第二次実施計画となると、学校と幼稚園について書く必要がある。
 - ・本検討会は、幼稚園の適正配置についてのみ検討する。
 - ・小中学校についての記述が必要であれば、事務局で書き込んで、教育委員会協議でもいいのではないか。
 - ・検討会でまとめたものを区立学校適正配置第二次実施計画のなかに位置づけるのかどうかについては、まとめたあとの話ということになるだろう。
2. 適正配置対象園について
 - (1) 廃園とする園の数
 - ・現在の充員率から考えると、廃園とする園の数は2園で妥当だと思う。
 - (2) 適正配置後の園の運営
 - ・2園にしたとき、めざす充員率というものを考えるべきか。
 - ・残った幼稚園の定員を変える予定はない。
 - ・残った園は、空いている教室がいっぱいになることをめざすことになると思う。
 - ・せっかく2園を残すので、充実した教育をしていきたい。

(3) 対象園の考え方

- ・ 4 幼稚園は、老朽度などに大きな違いはない。
- ・ 園によって、面積や教室の大きさはだいぶ違う。
- ・ 園ごとに土地・建物の権利関係が異なる。跡施設を考えると、権利関係は大きな問題であり、転用できるかどうかの確認が重要である。
- ・ 残す園を考えると、場所はとても重要だと思う。場所がくっついている 2 園を残したり、光が丘の中心部からはずれている園を残したりすると、通えなくなる。今、通っている子どもたちが、さくら幼稚園まで通うとは考えられない。
- ・ 残りの 2 園には遠いから、近くの私立幼稚園に行きましょうとなってしまうのか、心配である。
- ・ さくら幼稚園は、隣が第九保育園で連携がやりやすい。
- ・ モデル園的な区立幼稚園を作っていく、という発想のとき、幼保連携・幼小連携には、この面積、この教室数が必要、というような、めざす幼稚園の機能があるのではないか。
- ・ 幼小連携を考えると、小学校との距離も関係が出てくる。

(4) 保護者への説明

- ・ 人数が倍に増えたら、今やっている教育活動をそのまま継続させるのは難しくなる。保護者の受け取り方が心配である。
- ・ 園児数が増えて教育活動が変わることについて保護者への理解を求めるのは、園長の役割である。
- ・ 小学校は統合で、幼稚園は統合じゃないとなると、どうして同じ光が丘で、小学校と幼稚園とでやり方が違うのか、と保護者に聞かれたら、どう説明するのか？
- ・ 幼稚園の統合となると、この園にいる人が、こちらの園に行かなければならない、ということはないので、統合は難しい。

3 今後のスケジュール

(最低人数)

- ・ 応募人数に関わらず、学級編制をするのか、という問題を検討する必要がある。
- ・ 北区では、10 人割ったら学級編制を行わない、というルールを設けている。
- ・ 新宿区も最低人数を決めている。
- ・ あとの区は、そのまま維持しているところが多い。
- ・ 募集のときに（〇人以下なら学級編制しないと）打ち出すと、もっと減ってしまうのではないか。
- ・ 最低人数によって休園するのであれば、募集要項で書かないといけない。
- ・ 学級編制しなければ教員の配置がないから、一年間は休園ということになる。年度途中からも入れない。

- ・幼稚園の教育を考えたとき、教育的に何人なら成立するかという問題。一人でも受けてほしいという気持ちはあっても、幼稚園としてのねらいが達成できないのでは仕方がない。「協同」ということが言われているわけだから、一定の人数が必要だろう。
- ・10人だと、5人・5人で二つのグループができる。集団遊びができる。
- ・10人が基準であれば、1ケタ、2ケタで納得しやすい数字だと思う。
- ・学級編成しないとすると、職員の問題もある。

(保護者説明会)

- ・保護者説明会は、在園児と入園希望者と両方やるのか？
- ・在園児の保護者に個別に説明会を行う必要はあるのか？
- ・修了児の保護者がボランティアでたくさん来てくれている。自分たちの園、という思い入れもある。幼稚園に入りたい人だけの問題ではない。

(全体スケジュール)

- ・8月下旬に区立幼稚園の申請書の印刷をして、9月11日に園児募集の区報掲載、というのが例年のスケジュールである。
- ・管理組合への連絡も必要である。
- ・園児募集の日程は、もう少し遅らせることはできないのか。
- ・区立幼稚園の園児決定が、私立幼稚園の募集よりあとになってはいけないのか。
- ・今年は、募集時期が2週間ほどずれることを想定してもらったほうがいい。